

第二十六回 久弥祭開かれた



深田久弥

山の文化館だより

令和4年
夏号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六二 七二一三三ー三
FAX 〇七六二 七二一八一ー

四月二十四日(日)例年通り富士写ヶ岳のふもとの九谷ダム広場で開催されました。令和二年はコロナ感染症のため中止、昨年コロナの影響で十月の開催でした。しかし、今年は春、四月末の石楠花やイワウチワの花盛りで新緑が美しい時期に開催し、献酒、献花、献句、朗読と滞りなく式典を終えることが出来ました。

昨年、深田久弥終焉の地葎崎市と加賀市が共同宣言を採択して本格的な交流が始まり、今年も葎崎深田祭実行委員会の主力メンバーが参列されました。

式典終了後には、参加者の多くが、枯渚登山口より花咲く富士写ヶ岳へと向かい、春の富士写ヶ岳を満喫しました。



シヤクナゲ



イワウチワ

久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その18

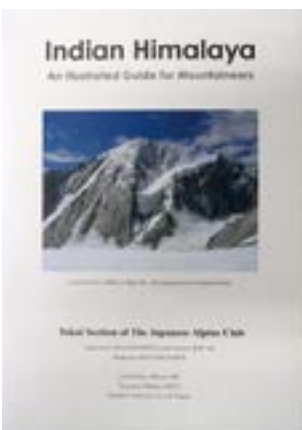
五万分の一地形図「三峰」と「金峰山」の二枚にわたって多くの赤鉛筆のラインと地名の書き込みがある。①笛吹川上流の廣瀬から雁坂峠を越えて栃本へのライン、②昇仙峡から金峰山を越え信州の梓山へ、そして甲武信岳を登り雁坂峠までのライン、そしてまた、③笛吹川上流の東沢から釜ノ沢を詰め甲武信岳へ登り真ノ沢を下っている。これらのラインについては、『わが山』の「雁坂峠」と題する一文に詳しく書かれている。①の雁坂峠越えは第一高等学校一年の大正十一年秋で、②の梓山からの甲武信岳は大正十二年秋の山

行である。③については年代を特定できなかった。しかし、その他に黒金山から国師岳へのライン、信州沢(信州谷)、セキト沢(金山沢) 辺りの尾根や谷にある幾つかの赤いラインが、また、白石山(和名倉山と書き換えてある)から牛王院山にかけて非常に多くの谷の名が書き込まれてもいる。これらは、「甲武信岳今昔」のなかに「甲武信の頂上へ昔の私は三度立ったが、・・・」と書かれているように、第一高等学校時代に歩き回った痕跡のようである。



この一冊

この度、日本山岳会東海支部から『インド・ヒマラヤ』英語版が出版されました。インド・ヒマラヤを十三の山域に大別し、約八百座の位置と山容の説明、特徴そして登山の歴史を概説した内容だそうです。概念図や写真も多く載せてあります。編集にはインド・ヒマラヤに精通した日本人だけでなくインド人も参加しているそうです。



寄稿

天の工たくみ——祖母山の東面——

大庭 保夫

初めての祖母山は十年程前の歳の暮れ、五ヶ所ルートの登山口から。積雪は少ないが岩塊が重なる氷結した険しい急坂を登った。山頂は霧氷が輝き、古い石祠と方位盤があり、阿蘇や九重の山並みがやや霞んでいた。

後年の三月末には、滝廉太郎の像が立つ「岡城跡」から「品のいいゆったりした金字塔」の姿を眺めた。また、ウエストンゆかりの「三秀台」にも再訪したが、「二瞥直ちに人を惹きつけるという際立った山容」ではなく、交通の便も決してよくない。そんな一寸見で本物が簡単に分かる筈のない祖母山だった。

久弥は山頂に立ち幸福な一時間を過ごし、尾平へ下った。「その途中から見た祖母東面の眺めはすばらしかった」という。私は尾平を知らないでその言葉が胸につかえていて、山の幾つかの宿題の一つにしていた。

六月の初旬、ある所用を奇貨として、その尾平へ竹田を経由し、豊後大野川を遡った。尾平はかつて錫の鉱山だったが、既に閉山されて、「尾平鉱山」が地名として残る。そこから山肌を縫うように峠へと上る途中、深い谷を挟んで祖母山の急峻な東面の岩壁および天狗岩や烏帽子岩にかけての稜線と岩峰を

一望、ようやく対面を果たした。

「圏谷状の谷は岩壁で囲まれ、鬱蒼たる原始林がその下を埋め尽くし、簇立する岩峰と黒々した森林の配合は全く天の工であった」と久弥は讚えた。ここでは鏃のように岩峰が数多く天を指していた。その岩峰群の下を覆う針葉樹林は午前の薄日に緑濃く見せていた。

「簇立する岩峰」といい「黒々した森林の配合」といいこれを「天の工」とは言い得て妙ではないか。神ならではの造形の美というのであろう。

六十年の時を経て立つ位置を違えても、同様の舞台を望み得てひと時、巧みな言葉の魔術の虜になって、ただ独り至福に浸った。

※注：太字の部分は深田久弥著『日本百名山』からの引用です。



祖母山



祖母山(右)から障子岳への稜線

● 間こう会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こう会はリモートで二会場形式にして実施しています。(聴講無料)

午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

■七月十日(日)

演題…昆虫はおもしろい(加賀市編)
講師…富沢 章氏(石川むしの会会長)

※小学生親子対象

■八月二十一日(日)

演題…カナリア諸島旅日記
講師…田崎信雄氏(加賀ハイキングクラブ)

■九月十一日(日)

演題…有閑余話—四国八十八か所を巡って—
講師…下坂正明氏

● 読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。(参加無料)

七月十五日(金)

『日本百名山』より「谷川岳」

九月十六日(金)

『日本百名山』より「大峰山」

十月二十一日(金)

『日本百名山』より「羅臼岳」

●場所…深田久弥山の文化館

●時間…午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

● 編集後記

山開きの便りと共に夏山シーズン到来です。

今年は山小屋の状況も、工夫をされつつ受入れが始まっているようです。花との出会いや涼を求めて山気に触れたいものです。(Y・K)

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>